

第2回宮城県消防操法大会のあり方検討会

宮城県消防操法大会の 具体的な見直し案

1 本日の見直し案提示にあたっての整理

■ 第1回検討会での共通認識「**負担軽減と技術維持の両立**」を踏まえた本日討議の論点整理

1. 「負担軽減」を目指します

- ・ いずれの見直し案(競技内容)を選択した場合でも、団員・運営側・消防職員の負担軽減を目指します。
 - ※ 「現行維持」を含め、従来のまま全負担を強いるような開催方式は行いません。
 - ※ 会場の選定、設営の簡素化、大会の時間短縮化等は全案共通で検討・実施します。

2. 本日の論点は「競技内容(操法をどうするか)」に特化します

- ・ 会場や輪番制、開催時期などの運営上の「具体的な負担軽減策(詳細事項)」については、本日の討議で競技の方向性が定まった後、第3回以降の検討会において具体的に討議・設計していきます。
- ・ また、全国大会代表の選考方法(輪番・抽選・推薦等)も競技決定後の論点として分離します。

 本日は純粋に「訓練・競技のあり方(何を行うか)」そのものに集中してご議論をお願いします。

2 4つの見直し案 比較マトリクス

- 各案の概要と、期待される効果(評価軸)の比較表です。
※評価軸は討議の目安です(◎:改善／○:小改善／×:変わらず)

案	競技内容	概要	団員の負担	運営側の負担	実践的技術の向上
現行	現行維持	現行の競技規則(ポンプ車・小型ポンプ)を維持し、タイムや規律を厳格に競う	×	×	×
案1	実践訓練への転換	タイム競争を廃止し、安全確実な操作や現場想定の実践的な「記録会・発表会」へ移行	○	×	◎
案2	競技種目の絞り込み	全国大会の割当種目に合わせ、「どちらか1種目のみ」の開催に規模を縮小	○	◎	×
案3	県大会廃止	県大会自体を廃止 リソースを市町村・分団単位の実践訓練へシフト	◎	○	○

3【現行】現行操法の維持

■ 競技としての規律や伝統を重視し、タイムや動作の正確性を厳格に競う現行の競技形式を維持

【競技内容】

- ・ポンプ車操法、小型ポンプ操法の2種目を実施。
- ・現行の「消防操法実施要領」に基づく規律・タイム・所作の厳正な減点審査。

メリット

- ・ 目標が明確
- ・ 選手の規律・迅速な統制行動の習得や、団員の士気高揚に有効
- ・ 勝敗(点数)が最もクリア
- ・ 全国大会への出場(優勝隊)を公平かつ客観的に選出できる。

デメリット

- ・ タイムを競う「過度な競技性」が残る。
- ・ 数ヶ月におよぶ長期の反復練習から、出場団員や指導職員が疲弊する(団員減少・若手確保の足かせ)。
- ・ 形式重視の動きが「実際の消火現場では役に立たない(形式主義)」との現場団員からの納得感の欠如

第3回以降の検討事項(競技決定後に議論する事項)

- ・ 選手および指導消防職員の精神的・肉体的な疲弊を緩和するための、練習期間の短縮ルールの検討など(練習回数(週〇回まで)の上制限等)
- ・ 全案共通の運営面での負担軽減策(会場固定、民間委託、時間短縮化等)の詳細設計

3【案1】実践的訓練への転換案

■ タイムを競わず、安全・確実な機械器具の操作に特化した「記録会・発表会」形式とする。

【競技内容】

・実災害を想定した訓練プログラム(例:火災通報から本部設置、水利確保、放水、残火確認、消防職員への引き継ぎまでの一連の流れ、中継送水、基本ロープ結索、応急処置等)。

メリット

- ・「実際の災害対応力強化」という本来の目的に合致し、団員の納得感が高い。
- ・スピード競争による怪我のリスクや過度な精神的負担が減少
- ・事前の膨大な練習時間が大幅に削減される(若手団員への好影響)

デメリット

- ・競技や勝敗がなくなること、訓練時の緊張感が薄れる懸念
- ・基本動作の安全管理意識がかえって疎かになる懸念
- ・運営・安全管理・消防学校カリキュラムとの整合性を伴った効果のある訓練の構築

第3回以降の検討事項(競技決定後に議論する事項)

- ・順位をつけない「安全・確実性」をどのように審査・評価し、各団へフィードバックするかという新たな基準作成
- ・実際の発表・記録会で実施する具体的な「訓練・プログラムメニュー」の選定
- ・全国大会代表(県代表)を決定するための、新たな選考基準やルール設計(抽選、推薦等)

3 【案2】 競技種目の絞り込み

- 現行の2種目同時開催をやめ、その年の全国大会の出場割当種目に合わせた「どちらか1種目のみ」を県大会で開催する。

【競技内容】

- ・競技規則や厳格な減点審査の仕組み自体は現行のままとする。

メリット

- ・ 実施する種目が半分(1種目)になる。
- ・ 県内全体の出場団員数、指導する消防職員の派遣負担が大きく減る。
- ・ 当日の運営人員や予算を物理的に大きく軽減できる。

デメリット

- ・ 競技内容自体は変わらないため、出場することになった特定の団員の精神的・肉体的負担は現行と変わらない。
- ・ 割当種目がポンプ車となった年に、小型ポンプしか配備されていない地域の出場機会が失われる等、開催競技に伴う不公平感が生じる。

第3回以降の検討事項(競技決定後に議論する事項)

- ・ 隔年開催時に、地域の配備資機材の乖離(小型ポンプしか無い等)を調整・救済するルール設計
- ・ 実施する1種目における運営負担軽減(時間短縮化、民間委託等)の詳細設計

3 【案3】 県大会廃止・各地域での訓練シフト案

- 県大会そのものを完全に廃止し、これまで大会に割いていたリソースを、市町村・分団単位の日常訓練（各地域の特性に応じた山林火災対応、水害対応、結索、機械器具点検など）の充実や講習会の実施へシフトする。

メリット

- ・ アンケートでも多く意見のあった「大会廃止」に応える形となる。
- ・ 大会に向けた「選手確保の労力」「家庭や仕事への過度な支障」「精神的負担」が解消する。
- ・ 一部の固定選手だけではなく、団員全体の消防・防災技術を地元で広く底上げできる。

デメリット

- ・ 他地域・他分団と切磋琢磨し技術を検証し合う機会が失われる。
- ・ 組織のモチベーション維持や連携力低下が懸念される。

第3回以降の検討事項(競技決定後に議論する事項)

- ・ 県大会を行わない場合の、全国大会代表を決定する公平かつ不満の出ないシステム（完全な輪番制、希望団からの抽選等）の設計
- ・ 市町村・分団単位での自主的・実践的な訓練活動を支援・活性化するための新たな仕組みの検討